

「帯広市における交通環境学習の取組について」

帯広市商工観光部商業まちづくり課

帯広市は、平成20年7月に国から環境モデル都市、平成25年6月にバイオマス産業都市に認定され、環境にやさしいまちづくり、豊富なバイオマスを活用したエネルギー自給可能なまちづくりを目指して様々な取組を進めています。

その中でも交通環境学習については、環境に負荷の少ないバス交通への理解と浸透を図ることを目的として、平成19年度から出前講座「環境問題教室」を実施しており、これまでに、延べ46団体3,349名が受講しています。

この事業は、国土交通省 北海道運輸局 帯広運輸支局やBDFの製造・販売を行っている民間事業者、バス事業者と協同で、将来ドライバーになり得る小学生や自家用車の事故率が高くなる高齢者を対象に実施しており、地球温暖化や運輸との関係、天ぷら油の廃食油をリサイクルして製造したBDFの精製や活用方法をテーマにした講座や、BDFを燃料にして走るバスの乗車体験を通して、市民の環境負荷低減に対する関心を高めるとともにバス交通の優位性を見直してもらい、過度に自家用車に依存せず公共交通を利用する習慣への転換を推進しています。

また、市内の路線バスでは全車両に廃てんぷら油の回収ボックスを設置しており、環境問題教室においても児童が家庭から持参した廃てんぷら油をバスの乗車体験時に回収するなど、環境配慮行動と公共交通利用を連携させた取組を行っています。

今後もバス事業者、民間事業者、学校関係者等と連携して講座内容の充実を図り、環境に優しいバス交通の利用促進に向け、交通環境学習の取組をより一層進めていきたいと考えています。